

## 第2回甲斐市総合教育会議議事録

- 1 日 時 令和6年2月6日(火)午後2時00分
- 2 場 所 甲斐市役所 本館3階 大会議室
- 3 開 会 午後2時00分
- 4 出席者 保坂武市長 高鳥悟教育長  
中込正久職務代理者 米山祐希委員  
小林啓子委員 金子初男委員
- 5 傍聴人 なし
- 6 事務局 丸山英資総合戦略部長 名取藤吾教育部長  
酒井厚志経営戦略課長 宮本裕教育総務課長  
樋川和之学校教育課長 金丸徹学校教育指導監  
広瀬修政策戦略係長 小田切英規教育総務係長  
早川千賀教育総務係員
- 7 市長あいさつ
- 8 議 題  
(1) K A I デジタル・プロジェクトの推進及び実施状況について  
(2) 第3次創甲斐教育推進大綱の策定について  
(3) その他
- 9 その他
- 10 閉 会 午後3時20分

○開 会

事務局 開会を宣する。

○市長あいさつ

市 長 ご苦労様です。こんにちは。

昨日から久方ぶりに大雪が降りましたが、路面の凍結等は心配がないようです。市内の主要な県道及び市道については、10センチほど積もりますと、関係業者が自主的に除雪していただく対応になっております。あいにく、業者がいない地域ですと市道の除雪がスムーズにいかないところもありますので、苦情もあつたりしますが、努力しているところです。また、職員の皆さんには早めに出勤していただき、庁舎の周辺や駐車場の除雪について、対応していただいたところでございます。このところ乾燥が続いておりましたので、良い雪かと思えます。また、新型コロナウイルスについてもちらほら感染者がいるようですので、注意して参りたいと考えております。

さて、教育委員の皆様には、平素より本市の教育行政につきまして、ご意見、ご指導を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の総合教育会議につきましては、教育委員の皆様と私どもが十分に意思の疎通を図り、地域の教育課題やあるべき姿を共有して、様々な調整・協議を図っていくために実施するものであります。

本日の議題は、「K A I デジタル・プロジェクトの推進及び実施状況について」と「第3次創甲斐教育推進大綱の策定について」となります。

「K A I デジタル・プロジェクト」につきましては、K A I メタバース・スクール事業、並びに公開型G I Sシステムにおけるドローン活用事業及びドローン操縦人材育成事業、また、K A I デジタル・トライアル事業の3つの実証事業について報告させていただきます。

「第3次創甲斐教育推進大綱」につきましては、令和7年度を始期といたしまして、本大綱の策定の趣旨や方法、また施策の体系案などについてご説明させていただきます。

限られた時間ではございますが、是非、活発なご論議をいただきますよう、お願いさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○議 題

(1) K A I デジタル・プロジェクトの推進及び実施状況について

市 長 担当から説明をお願いします。

事務局 (資料説明)

委 員 デジタル化が社会全体に進む中、甲斐市が甲斐ゼミナールや日本航空学園と連携したり、国の政策を元にした実証事業を行うことにより、市内小中学生や市民が大勢参加して、デジタル技術を体験する機会を得て、その良さや楽しさ、課題を実感したり、活用につなげていくことができたりする有効な取り組みであると思います。また、メタバース事業を活用することは、子どもが抱える複雑化した困難や多様な教育ニーズへの対応もでき、教育機会の提供にも繋がるのではないかと考えています。特に、メタバースでアバターを活用して、コミュニケーションを図れたことは、自分を発揮でき自信に繋がったのではないかと思います。

先ほど説明していただきましたが、2点ありましたね。子どもが学校に通うことができていなかったが、メタバース・スクールが自信につながり、登校できるようになった。こういう児童生徒がいらしたということ、それから、学校では発言することが苦手な子どもが答えている姿を見て、良い取り組みだと感じたという点も、大変成果があったのではないかと思います。

この3つの事業の今後の取り組みはどうされるのかということをお伺いしようと思いましたが、先ほど継続していくというお話がありましたので、是非また機会を設けて、大勢の市民の方に体験していただけると良いのではないかと思います。

委 員 今日、新聞を見ましたら、日本はデジタル国家としては遅れているという記事が掲載されていまして、世界で韓国が1位、日本は31位でした。

C委員が言うように、この3つの事業は効果があったと思います。特に、中学校には不登校教室がありますので、その教室に通っている生徒や教室まで来られない子どもたちを対象に、ぜひ行っていただきたいと思います。学校へ来られるようになったり、対話ができるようになったりしたということが先ほど説明にありましたが、まずは仮想空間でも構わないので挑戦してみて、その後、実際に学校へ来られるようになれば良いと思います。

また、特に中学校は人材が少ないので、メタバースを活用することで、不登校教室を担当する先生の手が空くと他の子どもたちにも良い影響があるのではないかと思います。

また、デジタルトランスフォーメーションは様々なことが交差できるようにということだと思います。1番は住民と行政の関わりところで、デジタルに興味を持ったり、親しんでもらったりすることも良いのですが、例えば、市役所庁舎の入口にデジタルを推進していますと案内を出したり、住民票を発行する際も申請書を記入するのではなくデジタルで行えたりすると良いのではないかと思います。基本的にはそれが1番ではないかと思っています。

デジタル化を進める意義の共有で、この3つの事業を行っていると思いますが、市役所の業務の簡略化にも繋がると良いと思います。先日、保健福祉推進協議会の資料をいただきましたが、とても分厚く、資料を作る方も大変ではないかと感じました。例えば、委員が20人いたら20部作らないとなりませんよね。委員にタブレット端末を配布していただければ、資料を印刷しなくても済むと思います。本日の資料や定例教育委員会の資料も同様ですが、タブレット端末で見られるようになれば紙の削減にも繋がりますよね。すでにやっただけしているとは思いますが、そういったことも意識しながら、住民の利便性や庁内の省略化などを広報するために、この3つの事業を行っていると思いますので、そういった元の意義をPRしていかないと本末転倒になってしまうのではないかと感じました。

まだ始めたばかりの事業で、新型コロナウイルス感染症の関係で、県

と市における情報交換で共有のものを使用していないといけないという  
ことで開始されたと思いますが、私たちが教員になって、管理職でパ  
ソコンを使い出した頃、教員の世界では「一太郎」を使用していました。  
ところが、退職した頃には「ワード」になってしまい、昔の技術が使え  
なくなっていました。ソフトが異なっているので、そこもトランス  
フォーメーションしたのだと思います。すでに結果が出ているようです  
が、そういうところも頭に置きながらこの事業を広め、それを市内でも  
進めていただきたいと思います。今後は出生が減り、サービスの対象は  
高齢者が増えてきますので、そういった面でも、データトランスフォー  
メーションの基本をしっかり押さえてほしいと思います。

事務局

まず、C委員から、子どもたちが抱える問題が多様化する中で、今回  
のような効果が出たことは良かったと評価をいただきまして、ありがと  
うございます。先ほどご説明したように、2月に事業が終わったところ  
で、また、利用者と保護者の方にアンケートを実施しまして、最終的に  
今後のメタバースの活用について検討してまいります。中間でいただ  
いた意見につきましては、ここに出席している学校教育課とも情報共有を  
しているところでございます。

次に、A委員からいただきました、不登校生徒の対応という面では、  
人が足りていないという学校現場の状況や不登校に対する取り組みに  
ついては学校教育課からお話しをいただき、とても大変であるというこ  
とを理解したところでございます。

また、デジタルの見える化についてですが、市では、令和3年度にス  
マートプロジェクト推進課を設立いたしまして、マイナンバーを活用し  
た「書かない窓口」や納税のキャッシュレス化を進めているところです。  
先ほど仰られたようなペーパーレス化については、市の行政の部分とし  
ては、着実に進めている状況でございます。今後も市民の皆様に対して、  
デジタルの見える化について取り組んでまいりたいと思いますので、今  
後ともご理解ご協力いただければと思います。よろしくお願いいたしま  
す。

市長

私もこの事業に参加しまして、ドローンを操作しましたが、少し触れ

るだけでもあつという間に動いてしまいました。子どもたちはすぐ慣れて上手に飛ばしていましたが、操作方法を事前に覚えないと難しいと感じました。現在、消防団の方も3人研修をしまして、この春には資格が取れるようです。来年度から新たに3人が希望しているようでして、このような研修を甲斐市でも有効活用していきたいと思っています。まずは、子どもたちがこうやって参加してもらえたことが非常に嬉しいです。

メタバースについては、私ももう少し参加できれば良いと思いましたが、アバターが帽子を被ったりベストを着たりしていますけれども、あれは誰なのかと子どもたちが興味深々で近くに寄って来たりしていました。とても楽しい教室で、こうやって子どもたちが引き込まれていくと良いと思いました。

その他、ご意見ご質問ございますか。

委員

メタバース・スクールについては、3ページにありますように、参加者の86パーセントが「簡単」あるいは「思ったより簡単」と回答しておりますし、学習効果についても55パーセントの方が認めているようですが、メタバースでの学習の良い点の中で「発言や質問がしやすい」という件数が少ないという印象を受けました。しかし、トータルでは55パーセントの方が効果を認めていらっしゃるということなので、事業としては良かったのではないかと思います。

それから、5ページにあります「様々な理由で通学できない子どもへの支援」についてですが、下の意見にもありますように、「学校では発言することが苦手な子どもが参加できている」、「メタバース・スクールが登校への自信につながった」といったメリットがあると思います。例えば、初期的に学校へ行けない、オークルームへも行けないという子どもたちがメタバースを活用することによって、他者と意見を交わすことができるという点は大きなメリットだと思いますが、反対に、対面の機会を奪っているようにも感じるという保護者の意見もありますので、そのあたりをどのように対応していくのかという課題があると思います。

また、今回は放課後の子どもたちが対象でしたが、メタバースを導入

して不登校の子どもたちを対応するとなると、午前中など子どもたちが学校にいる時間帯にメタバースを行った場合、参加できる子どもたちの人数が限られてしまいますので、そこをどのように対応していけば良いのか気になるところではあります。今後としては、不登校の子どもたちの選択肢を広げる意味合いで、捉えていくことが良いのではないかと感じています。

6 ページのドローンの活用事業については、私が小学校の記念事業へ参加させていただいた際に、航空写真をドローンで撮影していただき、以前はこういった撮影はセスナを飛ばして校庭で撮りましたが、ドローンでの撮影も映像はしっかりしていましたし、短時間で実施できて効率も良いので、今後は学校現場においてもますます使用されていくのではないかと思います。

人材育成につきましては、参加者の意見の中でも、防災意識がありましたので、そういった意味でも子どもたちを含め、たくさんの方がこういった機会に触れられていくと良いと思いました。

他には、「物の運搬」という意見もありましたが、「物流の 2024 年問題」、2024 年でトラック業者の 14%の不足、2030 年には 34%不足すると言われていきますので、市の 1 つのきっかけとして、繋がっていくと良いかと思います。

また、事業の中でも航空写真や動画も配信できるようになると、より広く甲斐市の魅力を発信していくことができる取り組みではないかと思いました。

事務局

ご意見ありがとうございました。今回、総合戦略部でご説明させていただきました K A I デジタル・プロジェクトの推進事業については、教育に関する事業だけではございません。国が推奨する D X、これまでの業務を甲斐市が今後どのように変革していくのかというデジタル事業をご紹介させていただいたものでございます。

特にメタバースのソフト事業については、地元の民間学習塾との公民連携という一環の捉えで、甲斐市の子どもたちが、いかにデジタルコンテンツを体験できるかという趣旨で行っています。教育現場では

G I G Aスクール構想が進められておりますが、少しでもデジタル現場を体験してもらおうということで実施したところ、いただいたご意見が委員の皆様からも出ております不登校対策や学習機会、また、意見を言えるようになったといった高評価をいただいたところであります。これ以降の事業については、所管課である教育委員会と連携を図る必要もありますし、市として教育現場のDXをどのようにしていくのかということは義務教育現場との整合性もございますので、今後の課題であると捉えさせていただきます。

ドローンをはじめ、様々な物のデジタル化が進んでおりますので、市として可能な限り実証し、活用できるものについては、各所管において対応していく形をとっていきたいと思います。引き続き、市の事業内容については、教育現場に限らず、このような活動を続けて報告させていただきたいと思いますので、ぜひ今後のご意見をよろしくお願いいたします。

委員

教育に関連した事業だけではないということでしたが、せっかく担当課のお話しが伺えるということなので、2点ほど質問させていただければと思います。

まずメタバース・スクールについて、各家庭から参加者がメタバース空間に集まってくると思いますが、もし今後、教育分野に応用していくにあたって、立ち上げ時に大きな課題のようなものはありましたでしょうか。まだ実施中ということなので取りまとめ等はこれからだと思いますが、例えば、立ち上げ時に参加者がスムーズに参加できたのかといった点など課題はどのくらいあったのか、あるいは大きな問題はなく、スムーズにいったのかというあたりを教えていただければと思います。

事務局

メタバース・スクールの立ち上げ時の課題についてですが、アンケートの中でもかなり多かったように、どうしても通信環境がそれぞれのご家庭で違いますので、メタバース空間へ上手に入ることができなかった、授業を聞いていて途中で回線が落ちてしまったといった課題がありました。また、パソコンから仮想空間へ入らなければなりません、タブレットは持っているけれどもパソコンを持っていないというご家庭も



多くありました。今回は甲斐ゼミナールからパソコンの貸し出しを行っていただきましたが、どうしても通信環境については、各家庭の対応になってしまいますので、その点が1番の課題だと捉えているところでございます。

事務局

1点補足ですが、今申し上げた内容が技術面の課題でして、もう一方で教育面から考えますと、本来、教育委員会が扱うのは義務教育であります。一般の民間事業者が行っております今回の事業は、学習能力向上のため、本人の意思により通う塾となりますので、市としますと、市内に複数の学習塾がございますし、今回は日本で初めてのメタバース、かつ公民連携によるDXの推進という取り組みなので、これを行政が塾化していくことは大きな課題になるのではないかと思います。事業化する際には、関連する事業者の皆様で参画できる方に参画していただかなくてはならないという点が大きな課題だと思います。

もう1点、メタバースは仮想空間ですので、必ず誰か悪い人はいるわけですね。仮想空間の中で声をかけ、悪い道に引っ張るということも想定されると言われておりますので、この空間については、引き続き研究する必要があります。教育面、技術面については引き続き課題になってくると思います。

委員

2つ目ですが、今回は塾でしたので、メタバース空間ではあるけれども通う人は塾と同じような時間帯で参加するということですね。アンケートで、モチベーションを保ちにくいといった回答がありましたので、もしかすると開講している時間、来るべき時間に、やる気が出なかった等の理由で参加することができなかつたお子さんもいたのではないかと思います。今後、出席率をまとめるご予定はあるのでしょうか。

事務局

もともと70人の定員で募集をかけまして、12月末で57人の参加になっております。経過で言いますと、当初は55人から始まりまして、11月に追加募集をした際には60人の参加となりました。そして、現在57人となっております。参加者が少なくなっている理由の中には、部活動をやっている時間帯で参加できず、退講した子もいます。それ以外としては、授業の進み具合がうまく合わなかつたという意見もありまし

た。

委員

背景に記載もあります今後のDXについて、「住民との接点となるフロントヤード改革や基幹業務システムなどのバックヤードにおける」という取り組みを一体的に進める必要があるとご指摘があったと思いますが、こういったことを推進していくことを目指されていると思います。市役所でもバックヤードと言いますか、そういった業務システムを活用して取り組んでいらっしゃるというお話がありました。学校現場も校務支援システムを導入して、事務の簡略化や効率化を図っていると思いますが、まだ十分に使いこなすことができていない状況もありまして、支援、研修が必要だと感じているところです。そこで、市役所でもバックヤードにおける取り組みはスムーズに進んでいるのかということをお聞きしたいと思います。

事務局

庁内のDXにつきましては、総務部のスマートプロジェクト推進課で行なっておりまして、直接、総合戦略部では取り決めはないのですが、やはりこのDXの推進にあたっては、短期間の勝負でございまして、随時、我々幹部職員から一般職員を対象にした研修を進めながら、押印不要の電子決裁や電子申請による休暇願いなどに取り組んでおります。

事務局

様々なご意見をいただき、ありがとうございます。総合戦略部長からもお話しがあったように、デジタルトランスフォーメーションの一環として、メタバース・スクールの実証実験を実施していただく中で、様々な検証結果が出ています。学校教育で活用するとなると学習指導要領の関係もありますし、改正する時間も必要になってきますが、塾という形での開講でも様々な課題がある中で、不登校関係にも何らかの効果がありそうなので、総合戦略部と情報共有をしながら、じっくり進めていきたいと思います。学校には学校の課題がありまして、例えば教員の多忙化で言いますと、特別支援や不登校の対応が大変でして、教員の人材不足もあります。すでに通常の時間帯は職員室に教員が誰もいない状況の中で、これを運営していくのは誰なのかといった点など、さまざまな課題が生まれてくると思います。そのあたりも含めながら、情報共有をしていきたいと考えております。

市長                    その他、ご意見ご質問ございますか。よろしいですか。  
一同                    なし。

(2) 第3次創甲斐教育推進大綱の策定について

市長                    担当から説明をお願いします。

事務局                (資料説明)

委員                    まず基本理念のところ、今回は「つながる ひろがる 笑顔の未来へ」という副題が掲げられておりますが、その考えや思いをお聞きしたいと思います。

また、表記についてですが、「つながる ひろがる 笑顔の未来へ」という副題は縦書きですから、左側に記載がありますが、右側に体系がありますので、この副題も右側へ記載した方が良いのではないかと思います。

それから、政策項目の「こども読書活動の推進」と「すべてのこどもの学習機会の支援」について、こどもの「こ」を平仮名にした思いがあると思いますが、「甲斐っ子づくり」の「子」は漢字ですよ。ですから、ここは漢字の表記が良いのではないかと思います。

また、基本方針と施策項目の「家庭・地域・学校」について、前回もこのような並びになっていたと思いますが、改めて拝見しまして、個人的には、「学校・家庭・地域」という順番の方が良いのではないかと思います。

あと政策項目の緑の一番上の(3)の「文化芸術に親しむ機会の充実」について、この表現が無難かもしれませんが、「文化芸術活動の推進」というところまで謳ったらどうでしょうか。

事務局                まず、基本理念の副題「つながる ひろがる 笑顔の未来へ」につきましては、最近の社会情勢が目まぐるしく変化していることから、今後の子どもたちの未来へつながるように、笑顔の未来を迎えられるように、そういった願いを込めて、教育の理念として入れたところでございます。ただ、この内容は4月以降に、策定会議やプロジェクトチームの中で協議いたします。現時点での決定事項ではございませんので、ご理解をい

ただきたいと思います。

その他、基本方針や施策項目についても様々な貴重なご意見をいただいております。この内容も4月以降の協議の中に反映していきたいと考えておりますので、ご理解いただければと思います。よろしくお願いいたします。

市長 副題の表記の位置についても4月以降に協議するというのでしょうか。

事務局 こちらにつきましても、現時点では体系案をA4縦書きの状態にして、15ページの中に基本理念から施策項目までを左側から右側の方に表記している形となりますが、副題や全体的な表示についても、左から右へ行くのか、あるいは上から下へ行くのかなど、どのような形にするのかという点も協議の中で進めてまいります。

委員 15ページの上、(4)の「自立した学習者の育成」が入っていて良いと思いますが、私は子どもを育てる時の「知・徳・体」ではなくて、「知情意体」を総合して「徳」になると思っています。これはカントの考え方です。自分で自分を育てていくこと、生涯学習という面もあるとすれば、自己学習能力を作っていくためには1番大事だと思います。それは新しい指導要領でもそのようになっていると思いますが、意欲や情感を忘れてはならないと思うので、そのことも頭に入れて大綱を作っていたきたいと思います。

委員 今回、副題を設けて、より第3次の狙いを明確化していて良いと思いました。基本目標1について、第2次創甲斐教育では「共に生きる」となっている表現が第3次では「未来を生きる」と変わっていますし、「人生を豊かにする」ということが未来への可能性を拓くことに繋がりますので、副題を生かした基本目標になっているのではないかと思います。

併せて、基本方針の黄色い部分の1番、「多様な教育ニーズに対応した質の高い教育の推進」が新たに設けられていまして、その中には、個々に応じた指導やICT活用といった部分も盛り込まれているところも良いと思いました。

また、基本目標の中に新たに「教育DXの推進」が加えられていまし

て、これについてはG I G Aスクールや情報活用能力、あるいは、校務D Xという近々の課題であると思われるものがしっかり盛り込まれていますので、これについても良いと思いました。

ただ、G I G Aスクール構想については、2018年のO E C D調査で51カ国のうち授業の中でI C Tを活用しているのは日本が最下位だったという結果を受けて、国でもこの構想を打ち出してきたと認識しておりますが、その時の調査の中で日本が唯一1位だったものがありまして、それは子どもたちのゲームの時間でした。要するに、情報リテラシーやデジタルデトックスといった「情報を使い分ける」、あるいは、もう少し創造的にI C T機器を使うということが大事ではないかと思しますので、ここに盛り込むというより、そういった部分も指導の上では持っていなければならないことだと思います。

また、先ほどから出ていますように、校務D Xについては、先生方の働き方改革という部分で効率的に進めていくことが大事だと思いますので、これを盛り込んでいることも良いと思いました。

最後に質問ですが、16ページの策定会議とプロジェクトチームの会議について、基本的には策定会議で揉んだものをプロジェクトチームが具体化していくという進め方と理解してよろしいでしょうか。その手順を教えてください。

事務局

策定会議の設置条例がありまして、その設置条例の中にプロジェクトチームについての規定もございます。プロジェクトチームについては、策定会議において、関係部署の職員で構成するものを置くということが規定されています。したがって、プロジェクトチームで揉んで、策定会議に諮るという形になります。ただ、第一回目につきましては、まず策定会議を開催いたしまして、委員を委嘱します。その後にプロジェクトチームを策定する形となりますので、最初については順番が逆になりますが、以降はプロジェクトチームで揉んで、それを策定会議に諮るような形を考えております。

委員

前回の策定時、私は教育委員ではなかったのですが、14ページの策定スケジュールのところ、「民間事業者のノ

ノウハウを最大限活用」とありますが、こういった事業者に入ってもらって、どんな業務をやってもらおうのか教えてください。

事務局

こちらにつきましては、令和6年度当初予算案に業務委託料を計上しております。その業務委託については、こういった計画策定業務を行う事業者にお願いしますが、それについては早期に事業者を決定して、その策定事業者のノウハウを活用したいと考えておりますので、あくまでも対象が計画策定等を行う事業者という形になります。

委員

ありがとうございます。スケジュールについてですが、プロジェクトチームで素案を作成して、策定会議に諮るという流れだと思いますが、私たち教育委員の意見を聞いていただく場面はあるのでしょうか。進捗の報告のみなのか、プロジェクトチーム会議の前に諮っていただけなのかという点を知りたいです。そうでないと今どこまで意見を申し上げたら良いのか判断しかねるので、教えてください。

事務局

先ほど簡単に触れたところではございますが、説明が不足していたかもしれません。申し訳ございませんでした。このスケジュールを目標に進めていく中で、教育委員の皆様にも当然ご意見をいただきたいという部分もありますので、毎月行っております定例教育委員会で、必要に応じてご協議をお願いしたいと考えております。よろしくお願いたします。

委員

先ほども触れましたが、「つながる ひろがる 笑顔の未来へ」という副題は、次期教育振興計画の中でも一つ謳っているウェルビーイングの向上、そういった個人や社会、地域の皆が幸福にという意味合いからもこういった言葉が出てきたのだと思いました。

事務局

ありがとうございます。副題につきましては、先ほど教育総務課長がお答えしたように、今後の策定会議で様々なご意見をいただいきたいと思います。ちなみに山梨県の教育振興基本計画の案も出ていますが、そこには「誰もが教育の機会にアクセスできる山梨」という副題がついています。国は5つの基本方針がありまして、そのうちの3つが同様の内容になっています。1つ目は「グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成」、2つ目は「誰一人取り残されず、全

ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進」、そして3つ目は、「地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」となっております。この3つを甲斐市に当てはめながら、素案として出させていただいたのが「つながる ひろがる 笑顔の未来へ」となっております。堅苦しいような目標になりますとご理解できない部分もあるかと思しますので、その辺も含めて今後の策定でご意見をいただきたいと思っております。

また、副題の記載の位置についてですが、国語的な表現ですとやはりこの順番になるかと思えます。県も今のところ副題が左側の記載となっておりますので、その辺も今後、研究をさせていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

市 長                    その他、ご意見ご質問ございますか。よろしいですか。  
一 同                    なし。

### (3)その他

市 長                    何かご意見、ご質問はございますでしょうか。  
一 同                    なし。

### ○その他

事務局                教育委員の皆様及び総合戦略部から何かありましたら、お願いいたします。  
一 同                    なし。

### ○閉 会

事務局                閉会を宣する。

閉会時間      午後 3 時 20 分